

地域の皆さまへ

子どもたちのスマホ・ネット等の適正な利用について

近年、スマホやゲーム機の急速な普及により、子どもたちがインターネットを通じた犯罪被害にあったり、オンラインゲームの依存症に陥ってしまったりするなど、スマホ・ネットの利用は青少年育成の大きな課題となっています。

上田市では7月の青少年の非行・被害防止全国強調月間にあわせ、この課題について地域の大人たちにも理解を深めていただきたいという趣旨で、リーフレット「スマホ・ネットをかしこく安全に使うために」の配布がありました。

お忙しい中恐縮ですが、ご覧ください。

「スマホ・ネットをかしこく安全に使うために」リーフレットの内容の概略

①自分用のスマホの所有率

小学生は3割、中学生は5割が自分用のスマホを所有しています。

自分用のスマホは、保護者の目が行き届きにくい傾向があります。

②ネットへの写真や動画の投稿

写真や動画の投稿を行っている小学生は10人に1人、中学生は4人に1人います。気軽に投稿する傾向がありますが、個人が特定されることもあります。

③ネットのみの知り合い

SNSやゲーム等を通じたネットだけの知り合いは、小学生は4人に1人、中学生は3人に1人います。簡単に知り合えますが、危険と隣り合わせです。

④利用時間

平日に2時間以上ネットやスマホを利用している小学生は5人に1人、中学生は3人に1人います。休日になると、4時間以上利用している中学生男子は4人に1人います。就寝時刻が遅くなった、家庭学習の時間が減少したと自覚している子どもも増えています。

⑤ネットやスマホの使い方ルールの実態

家庭で使い方のルールを定めている小学生は7割、中学生は6割です。

一方、法律で定められているフィルタリングを利用している小学生は3人に1人、中学生は4人に1人であり安全な管理ができているか懸念されます。

⑥これからの課題

新型コロナウイルス感染症対策に伴う長期間の休校、再開後の授業時間の増加、夏休み期間の縮小等の生活の変化により、子どもたちの心身にかかるストレスは増えています。スマホ・ネットへの依存傾向の進行、ネット上の交友トラブルの発生等が懸念されます。

⑦ご家庭や地域で

家庭内のネット利用のルールについて、子どもが納得する形で話し合って決めていきましょう。地域の大人も関心を高め、子どもたちがスマホやネットの利用を自分でコントロールできるように見守っていきましょう。